

# 連載シリーズ 京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）加盟施設紹介

## 第4回 京都芸術センター

### 【京都芸術センター様訪問】

先月、京都市学校歴史博物館を取材し、今年が番組小学校創設150周年の記念の年でもあるということで、旧番組小学校関連の京博連加盟施設を今月も訪問しようと思っていました。

そこでホームページ（HP）より事前に見学希望の申込みが出来、また京博連事務局の吉原係長様に今回もお世話になって連絡を入れていただいたお陰で、7月4日 午後2時からの訪問のアポイントが取れて中京区の室町通り錦上ルの京都芸術センター様（以下 芸術センターと省略させていただきます）を訪問しましたのでご紹介したいと思います。

事務室に入り対応していただいたのは、管理運営されている（公益財団法人）京都市芸術文化協会の小島様でした。事務室を見回すとさすが芸術系を扱う方らしく皆さん小島さん同様 若い方が多いようです。

第一線を退いたおじさんの訪問に驚かれたのではないのでしょうか？

まずはここ芸術センターの施設への視察・見学に来られた方専用というパンフレットを頂き、その説明からいただきました。

以下、パンフレットの中から引用させていただきます。



視察・見学者用パンフレット

### 〈理念〉

京都芸術センターは、京都市における芸術の総合的な振興を図ることを目的に2000（平成12）年4月に開設されました。

活動の特徴として

- 1) ジャンルを問わない若い世代の芸術家の制作活動の支援
- 2) さまざまなメディアを用いた、芸術文化に関する情報の収集と発信
- 3) 芸術家と市民あるいは芸術家相互の交流も促進

の3点が挙げられます。

### 〈事業内容〉

- 1・制作支援事業

若手芸術家を支える取組として、芸術家・団体に対し最長3ヶ月間、無償で制作の場（全12室）を提供しています。

## 2・伝統

伝統芸術・芸能の「現在」を広く伝えることに重点を置いたプログラムを実施。

## 3・パフォーマンス・アーツ

演劇やダンス、音楽などの創作と人材育成、市民との交流に関わる事業など。

## 4・ヴィジュアル・アーツ

年間を通して主に現代美術の展覧会を開催。

## 5・アーティスト・イン・レジデンス

国内外のアーティストや研究者が京都に滞在し、作品制作やリサーチを行う機会を提供。

## 6・Co-program（コプログラム）

京都芸術センターと共同で行う公演、展覧会、リサーチ等を募集し、共にその実現に取り組みます。

## 〈沿革〉 抜粋

- 1993（平成5）年3月 明倫小学校閉校
- 1995（平成7）年5月～1998年 「芸術祭典・京」の会場として利用
- 1999（平成11）年1月 京都芸術センター整備工事着工
- 2000（平成12）年1月 竣工
- 3月 オープニング記念事業開催
- 4月 開設
- 2008（平成20）年7月 国の有形文化財に登録（建物）

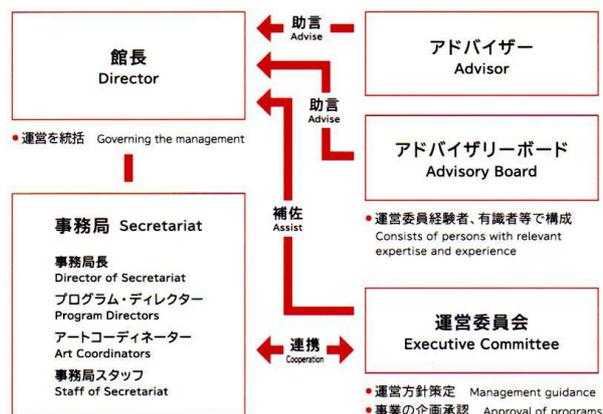
## 〈運営〉

運営は、芸術家・芸能関係者を主体として、それを支援する市民・行政等と協力関係を築くことで実現されています。（右図参照）

センターの代表である館長のもと、その諮問機関となるアドバイザーボードを設けるとともに、運営方針の策定や制作室使用者の選考を行う運営委員会を設定しています。

また明倫自治連合会をはじめとする地元の方々や多くのボランティア・スタッフの協力の下でセンターが運営されています。

施設の管理運営は、開設以来、公益財団法人 京都市芸術文化協会が行っています。（2006年度以降は指定管理者）



## 〈建物〉

元明倫小学校（1869〈明治2〉年開校の下京三番組小学校）で、1931（昭和6）年に改築されたものです。当初から趣のある講堂、折上格天井を持つ78畳の大広間、屋上の和室「明倫」を備え、2008（平成20）年に国の有形文化財に登録されました。

## 〈明倫小学校について〉

明倫小学校は1869（明治2）年9月16日に「下京三番組小学校」として開校しました。江戸時代中期の京都で民衆のための実践的な道徳を説いた思想家・石田梅岩いしだばいがんの教えを弟子たちがまとめた「石門心学」せきもんしんがくを学ぶ心学講舎「明倫舎」を校地・校舎に譲り受けたことから、後に「明倫小学校」と改称します。

「明倫小学校」は124年の歴史をもって閉校しましたが、京都芸術センターとなった今も、知らないことに出会い、自己のキャパシティを押し広げていく場所・人々が集い、学ぶところであることにかわりありません。

## シンボルマーク & ロゴタイプ

シンボルマークのデザインは安田 正氏、ロゴタイプのデザインは岡本秀司氏のデザインです。

シンボルマークは、明倫小学校の「M」、アートの「A」、センターの「C」が重なり、形作られています。



地域に根をはり、アートを育て、世界に向けて発信するアンテナ。京都芸術センターの意思を伝えるシンボルマークです。

## いざ！ 芸術センターの中を案内していただきました。

再び入口からご案内します。正面 南館の壁にシンボルロゴマークとロゴデザイン。一瞬ここは何の建物？と入るのに躊躇される方がおられるのを見受けます。

校門（？）の門柱表記を見てやっと入ってこられる方が多いようです。ここが元明倫小学校だとわかって入って来られる方は少ないと思われます。

小島さんに「もっと入口に少し派手な芸術センターらしい看板なり宣伝する物を出してはダメ（地域あるいは京都市独特のケバケバシイ色使いを禁止する規制がありますので）なんですか？」とお尋ねしました。

すると特別にそのような規制はないのですが、この芸術センターでは展示会等の開催時はそのような広告を表に出すことはあるのですが、ここは芸術作品の創作の場、あるいは研修の場での使われ方も多いので中で見られるものが少ない時もある、という答えが帰ってきました。



入口から入って進み、振り返ると右手にあるのが事務室とチケット窓口がある西館。入ると正面に第二代京都府知事 榎村正直が書いた「明倫」の扁額が出迎えます。



南館に入るまでの植栽にはここが小学校だったことを示す数々の証拠が残っています。二宮金次郎像（尊徳像）や井戸の手動汲み上げポンプなどが植栽の中に見えます。

南館に入ると正面に各館のフロアごとの部屋の案内が張られていました。  
南館一番手前にはカフェも営業しています。

またテーブルの上には、  
毎月の催事をジャンルごとに掲載している「京都芸術センター通信」  
催しの案内として「明倫レコード倶楽部」では講堂において蓄音機とレコードの音色を、いしいしんじ氏の解説とともに1ドリンク付き500円で次回開催予定。  
などの他、図書室の案内も一緒に置かれていました。



京都芸術センター通信では、センターで開催されるイベントカレンダーやチケット情報が詳細に書かれています。

まずは北館から案内していただきました。  
南館のカフェの丁度前から校庭に出て、その校庭の左に見えるのが北館です。



北館はワークショップルームやギャラリー、稽古場として使われている制作室がありました。  
真中の写真は北館の端から校庭の反対側にある西館を望んだものです。西館の2階に大広間や講堂があります。  
右が南館でギャラリー、制作室、情報コーナー、図書室、カフェなどがあります。



北館 1階の制作室1は広い床に水道とガスの設備があります。絵や彫刻、染色など芸術作品のアトリエなどに向いていますね。



こちらは3階の制作室10。壁には大きな鏡があり、床面もフローリング仕上げとなっていてダンスのレッスンにはうってつけです！

この北館の西側階段部分は階段ではなくスロープとなっており、そのゆるやかなフォルムと白い壁、いびつにゆがんだ古いガラスがはめ込まれた窓のデザインと相まって学校の階段というよりはどこかの宮殿を思わせる雰囲気があります！それもフロアごとに趣きを替えた造りにはもはや芸術作品です！



2階にある渡り廊下を通して次は南館に移動しますが、ここでもアーチ状の通路を通ります。南館にも制作室がありますが、ミーティング・ルームやボランティア・ルームが3Fに、そして4Fには和室があります。和室にはお茶が点てられるように炉が切っております。(事業開催時以外は非公開)



1階には先ほど見たカフェ（前田珈琲 京都芸術センター店）の横に広い情報センターがあり、ここには室内一杯に各ジャンルごとに沢山のパンフレット等が置かれています。そしてその向こうに図書室があります。貸し出しは出来ませんが、芸術関係の資料は勿論、この地域の歴史資料なども豊富に揃っていますのでこの辺りのことを調べるには持ってこいの場所といえるでしょう。



案内の最後にこの建物はパラペット（陸屋根用の防水壁）部分の瓦をオレンジ色に、樋部分の緑、そして壁はクリーム色と、スペイン風なイメージで表から見える外観を統一されているということでした。



左：78畳の大広間

右：和室（明倫）

共に画像提供は  
京都芸術センター様



### 編集者より

今回は、京都芸術センターの運営管理をされておられる（公益財団法人）京都市芸術文化協会の小島様他の皆様大変お世話になりました。

私の拙い文章の校正・修正をお願いし、また大広間や和室の画像提供にまで応えていただき、関係各所の皆様には重ねて御礼申し上げます。本当に有難う御座いました。

これからも京都に限らず、日本中・世界中の芸術を愛する人々の為に活躍をお祈り申し上げます。

以前からXYLの通っていた明倫小学校跡ということもあり、祇園祭にはXYLの実家（八幡山を出す三条町）を訪れる際には必ずここに入っては懐かしんでおりました。

今年は残念ながら雨の為21日に後祭を家族で楽しんだため、芸術センター様は祇園祭（前祭）にともない17時で閉館ということで中に入ることは出来ませんでした。（通常は10:00-22:00開館。ギャラリー、図書室は20:00まで）

### 【取材後の後祭】

祇園祭の前祭では、この芸術センターの北約50mほどの所に山伏山が建ちます。（前述）

前祭には露天（夜店）が立ち並びますが、後祭では夜店などの露天は一切なく、この芸術センターがエコ屋台村のメイン会場へと変身します。

残念ながら、今年は梅雨入りが遅れたこともあり、雨が多くてエコ屋台村が開催される22日と23日は時折強い雨や雷の鳴る生憎の天候となりました。

22日の夕刻時分に再びこの町内を訪れる機会があったのですが、エコ屋台村の開場時刻（17:00～）までは居れなかった為 中の様子を撮影することは出来ませんでした。

今年は例年よりはるかに梅雨入りが遅れ、また残念ながら前祭、後祭共に雨の影響で懸装品が透明のビニールで覆われるなどした宵山でしたので、人出が少なかったのが残念です。雨に泣かされた今年の祇園祭でした。



夜店の出店のない後祭では山鉦以外では若者に人気が、会場時間前にはすでに行列が出来ていました。

エコ屋台村のパンフレット ⇒

22、23日両日に各種イベントが開催予定

